

秋田県名誉県民 遠 藤 章 氏 功績



生年月日 昭和8年11月14日生

顕彰年月日 平成18年12月20日

【功績】

由利郡東由利町(現由利本荘市)に生まれ、昭和28年秋田市立高等学校を卒業、昭和32年東北大学農学部農芸化学科を卒業後、三共株式会社に入社し、食品製造に用いる酵素の研究に従事する。昭和41年農学博士の学位を授与され、同年米国アルバート・アインシュタイン医科大学に留学する。昭和50年三共株式会社発酵研究所研究第三室長を経て、昭和54年東京農工大学農学部助教授になり、昭和61年同部教授となる。

平成9年退官後は、株式会社バイオフーム研究所代表取締役所長及び東京農工大学名誉教授として現在に至っている。

昭和46年に約6千種のカビ菌類からコレステロール合成阻害物質を抽出する研究に着手し、青カビの一種から得られた物質(ML-236B)が血中のコレステロール値を下げる作用があることを発見した。これを新薬として開発するために数々の困難を乗り越えて粘り強く努力を続けた結果、ヒトにも有効であることを証明したことで、スタチンと総称されるML-236Bの系統の薬剤が多くの製薬会社により製造され、現在では世界中で3千万人以上の心筋梗塞をはじめとする血管障害性疾患の患者の治療に用いられている。こうした氏の一連の研究は、高コレステロール血症の予防と治療に決定的な役割を果たしており、医療分野への貢献は絶大である。

氏の研究は国際的にも高い評価を受けており、昭和62年ハインリッヒ・ヴィーラント賞、同63年東レ科学技術賞、平成12年ウォーレン・アルパート賞、同18年日本国

際賞、同年マスリー賞等多くの表彰を受けるなど、その功績は県民ひとしく誇りとするものである。